

社会科学学習指導案

指導者 迫 眞 也

日 時 平成25年11月30日（土） 第1校時（10：00～10：50）
年 組 中学校第3学年2組 計40名（男子20名，女子20名）
場 所 中学校第3学年2組教室
単 元 「国際社会と世界平和」

単元について

先の教育基本法改正と学習指導要領の改訂で、宗教に関する一般的な教養が取りざたされるようになった。社会科公民的分野では、国際社会における文化や宗教の多様性についての学習があらたに加わっている。国際社会における宗教の影響力はとりわけ大きく、世界中で起きている紛争の多くがその影響を受けていると言っても過言ではない。もちろん、こうした紛争の背景には貧困や格差が広がっているが、現象として現れる場合には、宗教紛争の形をとることが少なくない。国際理解を図るためには、国際情勢を読み解き、宗教の影響力を正しく理解することは必須と言えるのではないか。その一方で、日本の伝統的な生活習慣や年中行事が失われつつある現状では、社会に最低限の宗教的な知識も共有されているとはいえない実情がある。また、現在の日本社会においては、たとえ周辺国との緊張が多少高まることがあっても、紛争やテロリズムが身近に感じられることがリアリティをもって語られることはない。これらのことを考え合わせると、現代に残る宗教の影響力も、社会で保たれている平和の大切さも、現代の日本社会においては実感しにくくなっているのではないだろうか。

本学級は授業者が担任をつとめるクラスである。クラスの生徒同士には親和的な雰囲気があり、授業への参加意欲も高い。個人思考の場面においても、自らの意見をワークシートに表現することは、どの生徒についてもできる。また、昨年度に比べ、一部生徒においてはそうした意見を全体に対して発表し、交流することができるようになった。しかし、多くの生徒は、自らの意見を積極的に発表することについて、ためらう場面が多い。昨年度対象生徒を同じくして行ったアンケート（「広島大学附属東雲中学校宗教に関する意識調査2012」）では、宗教を身近に感じない（65.8％）・宗教を大切だとは思わない（「あまりそう思わない」「思わない」合算で53.1％）という回答がともに半数を超えた。また、記述による回答でも、宗教に対するネガティブなイメージが目立った。ただ、一方で肯定的なイメージで捉える生徒も一定数おり、おしなべて否定的なイメージが広がっているとも言い難い。

これまで、「信仰の自由と自己決定権」などさまざまな単元で宗教を取り扱った授業を行ってきた。また、それら以外の授業についても、課題に対する視点に宗教的価値観を取り入れ、トピックとして宗教に関わる事象を積極的にとりあげてきた。本単元では、世界的な視点にまで視野を広げ、宗教の影響をとらえるとともに、民族紛争などの背景になっているという宗教のネガティブな側面だけでなく、宗教の行う喜捨や社会貢献、個別の宗派を超えた祈りといった具体的事例から、ポジティブな側面を見出させたい。その上で、生徒たちが宗教的価値観の視点から、世界平和の実現可能性について考え、自らの意見としてまとめられるようにしたい。

指導目標

1. 世界平和の実現と福祉の拡大のために、各国の人々が相互の主権や歴史・文化を尊重し、協力し合うことが必要であることを認識させる。

2. 国際紛争の平和的な解決にあたって、国際機構や宗教団体・非政府組織などの国境を越えた活動について理解させ、今後の課題について考えさせる。
3. 戦争の防止と世界平和を願い、これを求めて協力しようとする態度を育てるとともに、国際平和に対する貢献の在り方を様々な角度から学習させる。

指導計画

国際社会と世界平和（全6時間）

1. 地球のさまざまな姿……1時間
2. 国際社会における国家……1時間
3. 国際連合のしくみと働き……1時間
4. 地域主義の動き……1時間
5. 新しい戦争……1時間
6. 世界の平和のために（本時）……1時間

本時の目標

宗教的な視点を考慮しながら、紛争やテロを抱える現在の国際社会に積極的平和を実現できるかどうかを考え、自らの意見を構築することができる。

「学びのつながり」の視点

Ⅲ期社会科においては、生活知と科学知ののびのびに重点を置いた授業づくりをめざしている。段階的にはstage5「地球規模の問題の解決にむけての知的好奇心」「新たな課題を発見・問題提起していく意欲や態度」を意識して授業を行う。本授業では、平和の実現について、世界的視野から、地域紛争やテロリズムを個別の課題として考えるのではなく、世界に広がる多くの国や地域での共通の課題ととらえる。その上で、宗教的価値観を身近な範囲にある学校や平和公園で見られる具体的な事例と関連づけること、さらにそこから見出した事実をもとに課題について考えさせることによって、生徒の問題解決への好奇心や、問題提起をしていく意欲や態度を育てることにつながると思う。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 導入（10分） □前時の学習内容を確認する ・これは何を表していたかな →世界各地で地域紛争が起こっている →紛争の多くは民族や宗教の対立から起こる □平和の定義を確認する ・平和であるために、最低限必要な状況は何だろう →戦争がないこと ・平和って、戦争がないことだけだろうか。他に条件はないだろうか ・東日本大震災後、建物や道路が元通りになって、	○前時に使用した「第二次世界大戦後のおもな地域紛争」の地図を使用し、地域紛争の多くの背景に宗教が関与していたことを復習する ○単純に戦争がない（消極的平和）だけでは、幸せに暮らしていけないことを想像させ、積極的平和の理解へつなげる ○ものやお金だけではない、心の問題が残ること

財産が戻ってくれば、復興したと言えるだろうか □宗教の意義について考える ・宗教って、戦うためにあるの？ →ちがう、わからない ・本来、宗教はどんな役割があるのだろうか？ →御利益がある、心がおちつく... etc ・では、世界平和を達成するためには、宗教の存在は役に立つのかな	に気づかせる。 ○宗教には、さまざまな形態や教義、解釈があるが、ここでは「多くの人間に救い（苦しみからの解放）を与えようとする」宗教の機能や目的に着目させる
宗教は世界を救えるのだろうか	
2. 展開 (35分) □宗教と貧困に関する資料を見て考える ・資料から、紛争やテロが起こっている国には、どんな人たちが多くいだろうか →宗教を大切にしている貧しい人が多い ・では、宗教がなければ、こうした人たちは救われるのだろうか □宗教の弱者救済について知る ・宗教では貧しさを救えないのだろうか ・経済的に救われたら豊かな生活になるのかな →ならない、わからない □原爆死没者慰霊碑について考える ・この写真、なんだかわかるかな ・どんな人たちが参拝しているだろう ・この慰霊碑って、何教の宗教施設なんだろう □話し合い ・宗教が世界を救える可能性って、何%ぐらいあるかな、話し合ってみよう 3. まとめ (5分) □自分の考えをワークシートにまとめる ・今日の授業で考えたことをふまえて、テーマに対する自分の考えをワークシートにまとめよう	○座席を班隊形に ○読み取りが難しい班には、グラフに示されている3つの情報を比べるよう机間指導をする ○紛争やテロの当事者たちがどのような人たちかについてイメージをもたせる ○紛争・テロの被害者のかかえる経済的被害だけでなく、心の問題についても考えさせる ○資料をもとに、さまざまな宗教に弱者救済の考え方や制度が整えられていることを理解させる ○孤児院や学校の建設が、宗教的信念にもとづくものだったことを理解させる ○積極的平和の視点から考えさせる ○参拝者の服装などからさまざまな宗教宗派の信仰者であることや、さまざまな宗教・宗派を超えて、多くの参拝者があることに気づく ○小さなホワイトボードに数字で書かせて、発表で補足説明をさせる。 ◆宗教のもつ影響力をさまざまな面から考察して、考えようとしているか【社会に対する関心・意欲・態度】

参考文献

小原友行. 『論争問題を取り上げた国際理解学習の開発』. 明治図書. 2006

文部科学省. 『中学校学習指導要領解説 社会編』. 2008

姜克實. 「社会事業成立史における国家と宗教の位相 一公益と愛の間で一」. 『社会事業史研究』第38号. 不二出版. 2010

CHARLES M. BLOW. 「Religious Outlier」. NewYorkTimesホームページ (http://www.nytimes.com/2010/09/04/opinion/04blow.html?_r=3&). 2013. 9. 30現在